

「秋の東北鉄道旅行 (18)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今回の角館地区の観光は、時間が限られていたので、「武家屋敷通り」と「檜木内川」だけで終わってしまいました。すぐに自転車ですりに戻らないといけない時刻になったが、帰りは別の道を通ることにした。



旅先の「知らない街」では、できるだけ往復でちがう道を通ったほうが良い。この日も帰りの道で、絵の題材になる風景にいくつか出会うことができた。



角館駅には、新幹線の発車 20 分前に着いた。実は角館駅は「二つ」ある。一つは JR の秋田新幹線 (田沢湖線) の駅、その横に「ひっそりと」建っているのが「秋田内陸縦貫鉄道」の角館駅だ。秋田内陸縦貫鉄道は、奥羽本線の鷹巣駅 (たかのすえき) と、角館駅を結んでいる第三セクターの鉄道だ。当然経営状態が悪いので、せめてもの協力と思い、乗りもしないのに窓口で「乗車券」と「急行券」を購入した。「窓口氏」は大変喜んでくれていた。



内陸縦貫鉄道の駅はひっそりとしていたが、JR線の駅は「みどりの窓口」もあり、観光客で賑わっていた。内部には売店やおみやげものの専門店もあって、観光地の玄関口らしい駅である。



秋田行き「こまち号」は定刻に到着した。7両全車指定席なのだが、この列車には、空いている座席には座っても良い規則になっている。幸い乗車率は7割ぐらいで、窓側に座ることができた。



秋田駅で急いで「おみやげ」を買って、今度は羽越本線の酒田行の普通列車に乗った。さすがに観光客は見られず、「秋田で買い物をした帰りの人」って感じの沿線の方が多く、ホームは結構混んでいた。